

令和6年度取組状況

ものづくり工学科

医療福祉工学コース

(職)准教授(氏名)古屋 友和

取 組 状 況	
教育	1. 人間工学実習のテキストの作成 ・実習テキストの内容が不足していたため、人間工学概論、人体計測手法、統計の基礎、設計手法の内容を折り込み作成した。 2. 品質工学・UXデザインのコンテンツの更新 ・品質工学、UXデザインのコンテンツについて授業の振りかえり、一部、更新した。 3. 学生の学会発表の実施 ・専攻科、本科 計6名に国際会議、国内学会の発表の機会を与え、指導を行い、主に学生の研究遂行能力、論理的な思考能力、プレゼンテーション能力を向上させた。
研究	1. 国際会議論文 [1] Eisuke Okane, Tomokazu Furuya, Juntaro Sakazaki, Ken Kikuchi, Takahiro Higuchi, “Relationship between gaze behavior and whole-body movement during car ingress”, Advances in Human Factors of Transportation Vol. 148(2024)pp.344–353[査読有][責任著者] [2] Junya Wada, Tomokazu Furuya, Takeshi Kawashima “Presentation of Position and Relative Speed of Surrounding Vehicles by Tactile Stimuli to Upper Limb”, 2024 IEEE International Conference on Consumer Electronics-Asia(2024)pp.1–4[査読有][責任著者] 2. 国内学会発表 [1] 岡根永将, 古屋友和, 坂崎純太郎, 菊地謙, 樋口貴広 “視覚情報の変化が自動車の乗車動作に及ぼす影響”人間工学60Supplement(2024)2C3-1[責任著者] [2] 大河原温人, 古屋友和 “電動車いすでの道路横断時における振動触覚刺激を用いた注意喚起方法の検討”人間工学60Supplement(2024) 2D5-5[責任著者] [3] 新井慶, 古屋友和, 坂崎純太郎, 日吉尚輝, 広崎蒼大, 樋口貴広 “触覚刺激を用いた自己運動感覚による自動車運転時の速度感制御の検討”ヒューマンインタフェースシンポジウム2024論文集(2024)pp.462–465[責任著者] [4] 貝澤もみじ, 古屋友和 “触覚と聴覚によるクロスモーダル効果を用いたタッチスイッチの検討”日本人間工学会関東支部 第30回卒業研究発表会予稿集(2024)pp.82–83[責任著者] ※優秀発表賞受賞 [5] 渡部紫月, 古屋友和 “ラバーハンド錯覚を用いた義手の身体所有感の向上”日本人間工学会関東支部 第30回卒業研究発表会予稿集(2024)pp.84–85[責任著者] 3. 外部資金獲得 [1] 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 研究代表者, R5～7年度実施
社会貢献	1. 学会活動 [1] 自動車技術会、ヒューマンインタフェース学会、日本人間工学会、日本交通科学学会 会員 [2] 日本人間工学会 代議員・関東支部 会計 [3] 日本人間工学会 第54回関東支部大会 セッション座長 2. その他 [1] 自動車技術会 第2回ドライバ評価手法検討部門委員会 話題提供講演 [2] 自動車メーカー 社内技術勉強会 講演 [3] 玉川大学 工学部 非常勤講師 [4] 東京都立産業技術高等専門学校オープンカレッジ:中学生のための人間工学講座(2024年9月実施)